

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

オオムギ網斑病の防除対策の徹底について

本年の麦は、平年に比べて生育が進んでおり、オオムギ網斑病についても、平年より早い時期から、県内各地で発生しています。

本病の本田防除の適期は出穂期～穂揃期ですが、これより早い時期から発生株が散見され、病斑が上位葉に進展している場合、臨機防除が必要となります。

については、下記を参考に、防除の徹底について生産者へ指導をお願いします。

記

1. 発生概況

(1) 3月2～3日に当センターが行った調査(22圃場)では、発生圃場率 68.2%、平均発生茎率 8.1%であり、前回調査(2月18～20日)に比べ、増加している(表1)。また、本年の発生圃場率、発生茎率は、前年より高い(表1)。

(2)本病の発生は、圃場間差が大きく(図1)、播種時期が早く生育の進んだ圃場で、発生が多い傾向にある。また、病斑の発生は下位葉が主体であるが、上位葉に進展している圃場も認められる(写真1、2)。

表1 オオムギ網斑病の発生状況(2019年、2020年)

2019年				2020年			
2月22～25日		3月5～6日		2月18～20日		3月2～3日	
発生圃場率	発生茎率	発生圃場率	発生茎率	発生圃場率	発生茎率	発生圃場率	発生茎率
4.5%	0.1%	54.5%	0.7%	36.4%	1.2%	68.2%	8.1%

注) 2018年以前は、2月下旬と3月上旬の調査をほとんど実施していないため、この時期の平年値は無い。

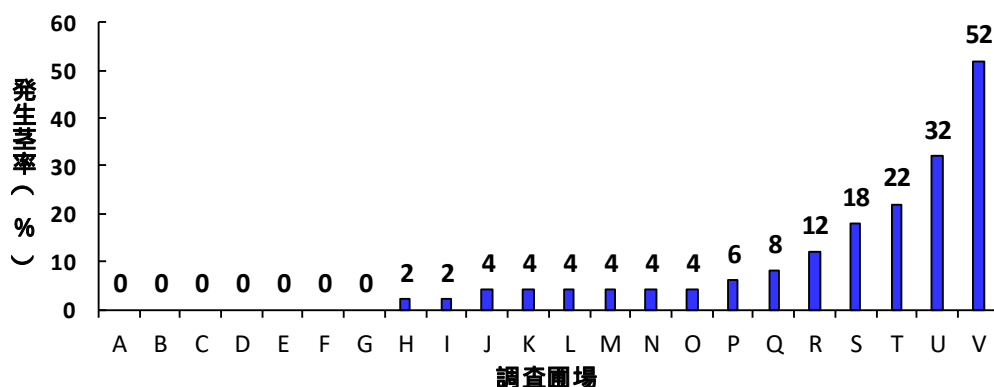


図1 圃場別にみたオオムギ網斑病の発生状況(2020年3月2～3日調査)



写真1 下位葉に発生したオオムギ網斑病(2020年3月3日)



写真2 上位葉に発生したオオムギ網斑病(2020年3月3日)

2. 防除対策

- (1)オオムギ網斑病が進展し上位葉が早期に枯れ上がると、登熟に影響し減収・品質低下を引き起こす。本病の発生は圃場間差が大きいことから(図1)、各圃場を観察し、発生株が散見され病斑が上位葉に進展している圃場では、臨機防除を実施する。
- (2)本病の本田防除の適期は出穂期～穂揃期である。出穂前の臨機防除の有無にかかわらず、適期の基幹防除は徹底する。なお、本年の麦は、平年に比べて生育が進んでいることから、圃場の観察に努め、適期を逃さぬよう防除を行う。
- (3)薬剤防除にあたっては、農薬使用時期、使用回数等の使用基準を遵守する(表2)。

表2 オオムギ網斑病の防除薬剤

FRACコード	薬剤名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本成分を含む農薬の総使用回数
3	チルト乳剤25	1,000倍	60～150L/10a	収穫21日前まで	1回
3	ワークアップフロアブル	2,000倍	60～150L/10a	収穫7日前まで	3回以内

病害虫防除のてびきに掲載している薬剤を掲載

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
 〒840 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952)45 8153 FAX (0952)45 5042